

Olympic  
Movement

<平成27年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

高崎市立吉井西中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
（作戦タイムなどを設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

## 座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の  
確認



写真・映像などを使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験  
に基づく「オリンピックの  
価値」などについて話す



グループ（個人）ワーク  
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年6月10日 (木)
- 場 所 : 高崎市立吉井西中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (25名)、2年2組 (23名)
- オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー/スノーボード)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・自己紹介後、本日の授業の目的を確認。(オリンピックと日常生活にどんな共通点があるか考えてみる)
- ・授業を進める上での3つの約束 (①何事も全力でやる、②チームを含め仲間と協力する、③ルールを守る)を確認し、授業をスタート。

2. 準備体操 等



- ・準備体操後、マーカーを用いたじゃんけん勝ち抜け競争と3班に分かれて、しっぽとり鬼を実施。





### 3. 主運動 等



- ・3班に分かれて大縄跳び（8の字跳び）を3回戦（各90秒）実施。各回終了後、連続で跳べた回数を発表し、作戦タイム（30秒）を設ける。



- ・クラス全員が内側を向いて輪になって手をつなぎ、20秒以内に手を離さずに全員が外側を向く「人間知恵の輪」を実施。
- ・1組は鶴岡先生とダッシュ競争を、2組は手つなぎだるまさんがころんだを実施。

### 4. まとめ 等



- ・授業の冒頭で決めた3つの約束が守れたか確認。
- ・次の授業では、運動の時間で感じたことを踏まえてオリンピックの価値について学習してもらおうと予告して、授業を終了。





■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・授業のはじめに「オリンピックに対するイメージ」を生徒に質問。
- ・鶴岡先生自身のオリンピック大会出場時の映像を紹介し、当時を振り返りながら競技の説明や当時の心情などを話した。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・近代オリンピックのはじまりについて、ピエール・ド・クーベルタンの写真を示しながら紹介。
- ・3つのオリンピックバリュー（価値）について、自身のエピソードを交えながら説明。
  - ①エクセレンス＝卓越（ときめき、ひらめき、あきらめない）諦めずに競技を続けた結果、オリンピックに出場することができた。
  - ②フレンドシップ＝友情（相乗効果、きずな）陰ながら支えてくれた他国代表チーム帯同のワックスマンの言葉。
  - ③リスペクト＝尊敬（感謝、ありがとう）自分を支えてくれた多くのスタッフ、関係者、観客への感謝の気持ち。





### 3. グループワーク 等



発問：運動の時間を思い出しながら、皆にとつてのオリンピックバリューを考えよう（はじめは個人で考え、その後各グループで意見をまとめる）。

発表：各グループの代表者から、心を一つにしてあきらめない＝エクセレンス、お互いの気持ちを考える、協力することで大きな力にする＝フレンドシップ、応援してもらう頑張りの源＝リスペクト等の意見が挙げられた。

### 4. まとめ 等



・今日の授業で学習した、オリンピックバリュー（価値）という考え方は、生徒自身の日常生活の中にもあることを再確認した。

・2020年の東京オリンピックにも触れ、この授業をきっかけに何らかの形で関わってみたいと伝え授業を終了。





■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





## ■ 記念品贈呈



・今日の授業の記念品として、JOC広報誌オリンピアンを生徒全員に贈呈。

## ■ 証明書贈呈



・JOCオリンピック教室を実施した証として、学校長へ鶴岡先生署名入りの証書を贈呈。

